

あれからもう三十年になるのに、常一筆は職工として仕事か。組合が結成されて以後、夢のついた。「戦後日本の復興は石炭だ」と。私、炭鉱生活に入ったのは、昭和十年である。四山鉱の徒弟第一期生として、採鉱、電気、機械の学科と軍事訓練を受け、半日は仕事だった。

私は炭鉱生活に入ったのは、昭和十年である。四山鉱の徒弟第一期生として、採鉱、電気、機械の学科と軍事訓練を受け、半日は仕事だった。

夜は、柔道のほかに夜間学校。そして苦しい家庭の生活を支えるための炭鉱の賃金は、十五歳で四十一銭の日給。二年目、四十三銭であった。

当時の物価で、上白米一升が十六銭だったことを思えば、低賃金の程がわかる。

二年の学業が終ると、坑内実科一年。小頭より一段低く、字が書けないが仕事ができるという特選従業員の人から技術教育を受け、十八歳で支度夫になった。

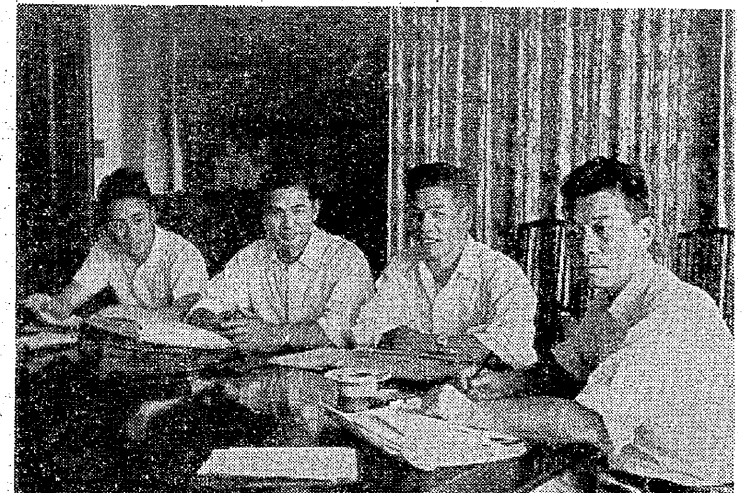
昭和十五年からは軍隊生活。台湾歩兵第二連隊の兵士として太平洋戦争に参加、二十一年九月シンガポールから復員した。

四山鉱に復帰。二十三年三川鉱

三池の思い出と課題

手記 遠藤長市

分会長になった私は、人の一番いやがる仕事にすんでついた。そこは危険で、賃金は取れず、仕事は苦しかったが、こんな経験の中でみんなと話し合い、作業配置(繰りこみのこと)の輪番制を考えた。一月くらい話し合いの結果、係員とさらに交渉をして実施することにした。しかし、分会長自分の仕事はこれまで通りとした。大変な忍耐が要った。



昭和29年頃の遠藤さん。向って右から2人めの人。三鉱連中間会議の際、北海道からやってきたヤマの仲間と……。

い人と職上の人とは半端で組んで仕事をする形をつくり出したこと。金銭の取れる時に取っておかないと、取ろうとしても取れない。

うからない切羽作業の時は休む。これでは、分会の団結はできない。どうしても、団結できる組織をつくり出さなければならぬ。それは、班編成をつくることだ。どうすればできるか。居住地域と職種を考慮してグループをつくり、それぞれ中央委員・代議員を配置し、さらに班長を選び、全分會員を家族を含めて一つに結ぶ。兵隊の時のことから考えたものだったが、結果がよいにはおどろいた。

分會員の出勤はよくなくなり、連絡が早くゆきわたり、相互の気遣いもよくわかるようになった。結果的には、事故が少なくなつてケガ人が減り、平均して賃金も取れるようにさえた。

この実績にもとづいて、私は支部委員会や中央委員会へ何回かの方式を提案したが、当時の指導者――たとえば浦川さん(現県議)や灰原さん(現在、社会主義協会)が書記長の時代でも、なか

この実施も、大変な努力が要った。だからする人は、もうかる切羽での作業の時だけ出勤しても

池の闘い(三十三日スト)がその略路線にほかなりません。今、私たちは労働条件の抜本的改善「命を守る反合理化闘争の強化」「大災害裁判の完全勝利」「正しい石炭政策の確立」と炭鉱労働者にささげたい。

三池の闘いは、私たちが(三鉱連)の勝利となりました。大冒険の計画を会社に撤回させたが、それ以上に私たちがこの文字通りの大衆闘争を体得したのでした。三池の組織のつくりかたが、大

きく変化を遂げていきました。この後三十年の長計闘争を経て三十一年度の到達闘争(四十三日スト。三権委議方式の闘い)となるのですが、会社の権力をバックにしたロックアウトとの激突となり

三池の闘いの歴史は、同時に私達一人ひとりの闘いの歴史でありま

三池の闘いの歴史は、同時に私達一人ひとりの闘いの歴史でありま

三池の闘いの歴史は、同時に私達一人ひとりの闘いの歴史でありま

お知らせ 五月二十七日、三池労組は三川公民館で中央委員会を開催し、方針確立のためでした。本紙次号でお伝えいたします。編集部

消えぬ炎

堀前 はるお

闘ひは我等のいのち春嵐

春の風は 情誼の声を 消えていかなかったのか

強く 弱く 遠く 近く 燃えながら運んで来る 停年を迎えてこまで移り住んで来たのに

何是か 停年では耳をこがらしてしまふ けしてくじけることは知らな

なせだろう 汗にまみれたままで 係員詰所に 鉱長室に 机をたたき 仲間と抗議したことを 今もなお闘いの炎は

三池の炎は 無敵に広がってゆくだろう 明日ある幸福のために

仲間よ いつの日か 三池の炎は 無敵に広がってゆくだろう 明日ある幸福のために

仲間よ いつの日か 三池の炎は 無敵に広がってゆくだろう 明日ある幸福のために

仲間よ いつの日か 三池の炎は 無敵に広がってゆくだろう 明日ある幸福のために

仲間よ いつの日か 三池の炎は 無敵に広がってゆくだろう 明日ある幸福のために

仲間よ いつの日か 三池の炎は 無敵に広がってゆくだろう 明日ある幸福のために

仲間よ いつの日か 三池の炎は 無敵に広がってゆくだろう 明日ある幸福のために

仲間よ いつの日か 三池の炎は 無敵に広がってゆくだろう 明日ある幸福のために

組合結成三十周年 記念を迎えて

主張

「三池炭鉱の労働者を第一の組合に組織化する」と、結成準備委員の準備が完了し、星三十三日の今日この一文をみるにつけ、組合結成大会の模様が目にうかぶようです。

その後三池労組は幾多の試練に直面し、苦難を乗り越えて、ここに三十年の記念式典を迎えることとなりました。

今闘いの歴史とその思い出が、際限なく胸裏をかすめます。とくに強く印象に刻まれているのは、まず二十五日のレッドパター、そして、それに引き続く希望退職に

池の闘い(三十三日スト)がその略路線にほかなりません。今、私たちは労働条件の抜本的改善「命を守る反合理化闘争の強化」「大災害裁判の完全勝利」「正しい石炭政策の確立」と炭鉱労働者にささげたい。

三池の闘いは、私たちが(三鉱連)の勝利となりました。大冒険の計画を会社に撤回させたが、それ以上に私たちがこの文字通りの大衆闘争を体得したのでした。三池の組織のつくりかたが、大

きく変化を遂げていきました。この後三十年の長計闘争を経て三十一年度の到達闘争(四十三日スト。三権委議方式の闘い)となるのですが、会社の権力をバックにしたロックアウトとの激突となり

三池の闘いの歴史は、同時に私達一人ひとりの闘いの歴史でありま

三池の闘いの歴史は、同時に私達一人ひとりの闘いの歴史でありま

三池の闘いの歴史は、同時に私達一人ひとりの闘いの歴史でありま

三池の闘いの歴史は、同時に私達一人ひとりの闘いの歴史でありま

三池の闘いの歴史は、同時に私達一人ひとりの闘いの歴史でありま

三池の闘いの歴史は、同時に私達一人ひとりの闘いの歴史でありま

三池の闘いの歴史は、同時に私達一人ひとりの闘いの歴史でありま



後藤さん

退職の人ひと

こんど三池製作支部で、十一人のなかまともにおくまで三池労組の旗のもとで、分裂の苦しみに屈せずたがってこられた後藤安男さんが退職されました。